

宗岡中だより



9月号 平成30年8月29日(水)
志木市上宗岡1-8-1 TEL 048-471-2241

「熊谷の 針刺すような 猛暑の陽」

校長 佐藤哲浩

7月23日、熊谷文化スポーツ公園に県大会の応援に行っていた私は、偶然にも日本最高気温 41.1℃を体感することができました。この日の午前中は、晴天とはいえ風もあり、湿度もそれほど高くないため、昨日の方が高いかなと感じていました。それが午後になると風もやんで、じっとしてても汗が止めどもなく流れ、日向に立つと暑くて肌が焼けるというより、皮膚が針で刺されているように感じる暑さでした。各気象台が発表する気温とは、通気性がよい場所で芝生のような地面から1.2m くらいの位置で測定しています。コンクリートでできている運動公園の気温は 50℃以上になっていたのではないかと思います。帰途にこのニュースを知り、改めて驚いた次第です。



話は変わって、皆さんにとってこの夏休みで一番印象に残ったことは何でしょうか。私が敢えて一つ挙げるとするなら、全国高校野球選手権100回大会で、金足農業が準優勝したことです。春夏連覇した大阪桐蔭ではなく金足農業である理由は、地元の生徒だけで勝ち進んだ快進撃は、同じような境遇の高校生に勇気を与えたはずだからです。準決勝の試合をNHKで解説した前横浜高校監督の渡辺元智氏は、「金足農業の野球は今から30,40年前の高校野球を見ているようだ」と言っていました。トレーニング法や栄養学の進歩によって大型化している現代の高校野球において、金足農業の野球はスモールベースボールを指導の原点にしていると思われます。

かつては、東北地方の野球は弱小県の扱いを受けていたため、組み合わせ抽選会で、東北勢との対戦が決まると、相手校からあからさまに喜ばれていました。東北勢は初戦敗退が多いため県議会で議題にあがる県もあったほどです。ところが現在は指導者の招聘や交流、強化プロジェクト等の発足で東北勢も強豪県に進化しつつあるのです。また北海道・東北の雪国県は、雪のためにグラウンドで練習ができないハンディを補うために、室内練習場の普及で中身の濃いトレーニングを工夫していることです。今回は東北勢にとって春夏を通して12度目の決勝での挑戦でしたが、またしてもその壁を打ち破ることはできませんでした。優勝旗の「白河の関」超えは、いつ、どの県が、どの学校が成し遂げるのか、東北出身の私は楽しみです。

さて、いよいよ今日から二学期が始まります。二学期は授業日が多く、勉強・行事に腰を据えて取り組むことができる学期です。1年生は中学校生活にも慣れ、「我々が学校を支えていく」という意識をもって学校生活を送ってください。2年生は部活動、生徒会活動では学校の中心になります。「我々が学校を引っ張っていく」という気概をもって学校生活を送ってください。そして3年生は学校行事に精一杯取り組むとともに、自分の進路に向